

学長及び教員の個人調書（記入例）

様式第4号（その1）

記入例 1 / 4

履 歴 書			
フリガナ 氏 名	サトウ タロウ 佐 藤 太 郎 〔外国人の場合「姓・名・ミドルネーム」の順に記入〕		⑧・女
生年月日 （年齢）	平成〇〇年〇〇月〇〇日生（満〇〇才） 〔令和 年4月1日現在の満年齢〕		写 真
現 住 所	〒603-〇〇〇〇 京都市北区上賀茂〇〇町1-12		
	TEL (075) - (000) - (000) 携帯電話 (090) - (0000) - (0000) E-mail ()		
学 歴			
年 月	事 項		
昭和〇〇年3月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科卒業		
昭和〇〇年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科修士課程〇〇学専攻入学		
昭和〇〇年3月	同 修了		
昭和〇〇年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科博士課程〇〇学専攻進学		
昭和〇〇年3月	同 修了（又は）同 単位取得満期退学		
昭和〇〇年3月	〇〇博士（〇〇大学）（又は）博士（〇〇学）（〇〇大学）		
〔旧制高校，旧専門学校の学歴は記入して下さい。〕 〔称号等は記入して下さい。〕 〔学位番号は記入不要です。〕			
職 歴			
年 月	事 項		
昭和〇〇年4月	〇〇株式会社入社		
昭和〇〇年3月	同 退職		
昭和〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部（〇〇研究所）助手（昭和〇〇年〇月まで）		
昭和〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部非常勤講師（平成〇〇年〇月まで）		
昭和〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部講師（昭和〇〇年〇月まで）		
昭和〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部助教授（平成〇〇年〇月まで）		
平成〇〇年1月	文部科学省教員組織審査において，京都産業大学〇〇学部〇〇学科教授（〇〇学，〇〇論）として認定		
平成〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部教授（〇〇〇〇担当）（現在に至る）		
平成〇〇年1月	文部科学省教員組織審査において，…D◎教授…認定		
平成〇〇年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科D◎教授（〇〇〇特別研究担当）（現在に至る）		
平成〇〇年4月	〇〇大学学生部長（平成〇〇年3月まで）		
〔現在の主要担当科目を記入して下さい。〕			
〔現職には必ず付記して下さい。〕			

教 育 研 究 業 績 書		
令和 年 月 日		
氏 名 佐 藤 太 郎 ㊟		
教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例 ・優れた教育方法の実践例、マルチメディア機器を活用した授業方法、学生の授業外における学習促進のための取り組み、講義内容のweb上での公開 等		
2. 作成した教科書、教材 ・作成した教科書、教材、講義で教科書として使用している著書、教材等の概要（後の「著書、学術論文」との重複も可。その場合、「(再掲)」と表示）		
3. 当該教員の教育上の能力に関する大学の評価 ・各大学での自己点検・評価の一環として、教育面で高い評価を受けた事実（その事由と評価内容） ・採用決定の際等における教育上の能力に関する評価 ・学生による授業評価、教員同士の相互評価等をまとめたもの ・上記以外で、学長、学部長、諸機関等が行った評価（客観性を持ったものについて記載）等		
4. その他 ・大学教育改善に関する団体等での活動の概要 ・教育実績に対する受賞歴 等		
職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
○企業、官公庁等の研究者の場合 ・開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要 ・取得した特許等の概要 ・大学との共同研究による研究実績がある場合、その概要、成果、当該研究者の役割 ○ その他、企業・団体等関係者 ・国際援助・開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績 ○ 情報技術者関係の場合 ・コンピューターに係る職務歴（職務上のコンピューター活用法、ソフト・システム開発歴） ○ マスコミ関係者の場合 ・執筆した記事の概要 ・作成した番組の概要 ○ 法曹関係者の場合 ・関係した訴訟等での活動や判決の概要 ○ 医師や看護師等医療技術者の場合 ・症例研究会での発表等の活動 ○ 福祉その他社会活動の関係者の場合 ・参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の当該活動における地位 ○ スポーツ等実技関係者の場合 ・指導者としての経歴・実績・資格 ○ 芸術関係者の場合 ・作品の概要 ○ 博物館、美術館等関係者の場合 ・担当した展覧会の概要 ・執筆・監修した展覧会図録の概要 ○ その他全般を通じて ・大学から受け入れた実習生に対する指導歴（看護・福祉実習、企業実習等） ・企業内教育、大学公開講座、社会教育講座の講師としての講義等の概要		

